

株式会社 アースクリエーション

新しい消臭剤の販路開拓に 独特の嗅覚を発揮



↑ 同社の消臭剤「バイオファイター」の試作段階のもの(平成23年頃)。スポーツ後の用具の消臭などにも効めていた。



↑ 中国での販売バージョンのバイオファイター。特に新築マンション購入者が、部屋の消臭用に使っているという。

富山発の、すごいアイデア商品が誕生しそうだ。この事例集発行の段階(平成28年3月)では、特許申請などの理由で、すべてを詳らかにすることはできないが、従来とは違ったシステムによる消臭剤が誕生しそうだ。

もともとの始まりは、関連会社で廃棄物処理業などを営む石橋隆二社長に入った、知人からの電話が縁だった。いわく「油を処理するおもしろい商材がある。一度見てみないか」と。知人に伴われて、後のバイオファイター(同社開発の消臭剤)の元となる粉体の開発者が訪れたのは、平成21年1月のことだった。

話を聞くと、その粉をグリーストラップ(飲食店等の廃油溜装置)に溜まる汚泥にかけると、油が分解されて廃棄物処理の手間がかからなくなるという。試してみると、油は本当に分解されてなくなってしまった。

従来その汚泥は、ビニール袋などに入れてパッカー車(機械式ゴミ収集車)で回収されていたが、袋づめの作業は敬遠されたものだ。特に夏場は腐敗して臭く、1滴でも衣類や体に付着しようものなら終日そのにおいに悩まされるのだった。

それをこの“魔法の粉”が解決してくれるという。石橋社長はさっそく特約店契約を結び、その商品化を図って販売を試みたのだが、飲食店等の反応は冷たかった。「その粉のために毎月15,000円もかけられない」というのがその理由だった。

商材開発にかけた1年がムダになるか、と思ったその時ひとりの社員がつぶやいた。

「社長、この粉をかけると、汚泥のにおいが消えていますか? これ消臭剤として生かせるのでは」

油の分解剤から消臭剤へ

そこで今度は消臭剤としての開発にチャレンジ。ティーバックのように分包し、使用の際、水に溶かしてスプレーする形式を試みるも、手間がかかるという理由に加え、水に溶かして2週間以内に使い切らないと、悪臭の元になるという笑うに笑えない事態が起き、再考が求められたのだ。

「その後で、今日のようなスプレースタイルにまで進化



↑ 日本で販売されているバイオファイター。詰替え専用の袋入りや業務用(20L入り)などもある。



↑ 用途開発の中でゼリー状にして、常時室内などで消臭効果を発揮させるものとして試みられたもの。他にも応用例は多数あり、その中から商品化が検討されている。

させましたが、粉を溶かした液体にあるものを加えて、バイオファイターができました」(石橋社長)

ここに至るまでにさらに1年ほどが費やされ、商品としてのブラッシュアップが図られるとともに、成分や消臭のメカニズムの解明、さらには経口毒性試験、皮膚刺激試験なども必要になり、富山県立大学がそれに協力したのであった。

「その結果わかったのは、バイオファイターでは乳酸菌がにおいの元に吸着・中和・分解して、においの発生源そのものを絶っていたのです。しかも天然成分で、かつ毒性などもなく、安心安全な消臭剤でした」(石橋社長)

既存の消臭剤とまったく違ったわけだ。既存の消臭剤の多くは界面活性剤などにより、においの元の表面をコーティングし、においの分子が空中を漂わないようにしているだけ。コーティングに亀裂が生じると再びにおい始めるものが多い。しかも成分は化学系だ。ところがバイオファイターは、においの元を分解してしまうため、再びにおわない(5分で最大80%消臭、5時間後には最大99.9%消臭)。しかも天然成分であるため安心して使うことができたのであった。

大手DIY店やホテルが採用

こうした特性を背景に販路開拓に乗り出したところ、芳香剤はあるものの消臭剤が普及していない中国では、シックハウス対策用に好評を博し、徐々に売れるように。韓国、タイなどでも消臭効果が認められ徐々に市場を拡大しつつあるところだ。

一方の国内の市場開拓は……。既存の消臭剤にくらべて割高なところがあるため、海外ほど伸びはしなかった。ただ、リピート率は高く、ある靴の販売チェーン店では、ブーツを履く女性向けに販売を始めると、「消臭効果がすごい」と口コミで広がって、毎月一定量の注文が入るようになるなど、販路は徐々に開けつつあるところ。当機構の「販路開拓ステップアップ事業」(平成25年度)や「中小企業首都圏販路開拓支援事業」(平成26年度)の採択を受けて、商社OB等のアドバイスの

下で営業をかけると、大手DIY店が販売し始めるとともに、名の知れたホテルが客室の消臭剤として採用したのだった。

また「中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業」(国、平成25年度補正)の適用を受けて、消臭剤をゼリー状に成型して部屋に置くタイプにするなど、スプレー以外での商品化も試み始めたところ、アイデアが次々と湧くようになった次第。その一つひとつを検討しているところだ。

消臭を縁に、別な角度でのビジネスも生まれつつあるという。当機構のマネージャーが仲介した採卵養鶏を営む県外の企業との商談では、「鶏舎全体の消臭」が最初のテーマであった。ところが詳しく検討してみると、鶏舎では乾燥した鶏糞が微細な粉になって舞い、梁の裏や建材の隙間などに入り込んでいるため隅々の消臭は不可能に近い。しかも鶏糞は次から次へと産出される……。

「残念ながら消臭のご要望にはお答えすることはできませんでしたが、鶏糞処理に力を貸して欲しいと依頼され、その解決策を探っているところです」

どうやら石橋社長は、仕事の匂いをかぐのが得意なようだ(当機構のマネージャーも)。

Profile

所在地 富山市草島15-14
 資本金 1000万円
 従業員 5名(パート等含)
 事業 環境改善型資材の開発、製造、販売など
 TEL 076-435-4700
 FAX 076-471-6061
 URL http://earth-c.jp/



稲作の天敵・ジャンボタニシの駆除や湖沼のアオコの除去などの環境事業も手がける石橋隆二社長。